



ワルシャワ大学とつながる異文化交流会

自主活動

実施日:2023年3月6日(月)
実施方法:Zoomオンライン
リーダー:情報学部情報学科1年 久保田梨音



1. 概要

ポーランドの首都ワルシャワに位置するワルシャワ大学の学生と群馬大学のGFL生が、日本語を用いてお互いの国の文化や価値観を理解する機会を提供するために本企画を実施した。グループディスカッションを通じて、GFL生にとっては異文化理解や多文化共生の価値観を養うこと、ワルシャワ大学の学生にとっては日本語の良さや面白さを知ってもらうことを目的とした。Zoomを用いたオンラインの異文化交流会であり、参加者は情報学部2名、共同教育学部1名、医学部医学科1名、医学部保健学科3名、理工学部5名の計11名であった。

2. 活動内容及びスケジュール

①開会の挨拶

群馬大学石崎泰樹学長とワルシャワ大学日本語学科長コズィラ・アグニェシカ学科長からの開会の挨拶。

②企画説明

当日の流れや、ブレイクアウトルームでの注意事項等の説明。

③グループディスカッション

ワルシャワ大学日本語学科3年生とGFL生が4つのグループに分かれてそれぞれのブレイクアウトルームへ入り、5つのテーマに沿った自国紹介を行った(図1,2)。紹介後、Google Documentを用いて各グループごとにポーランドと日本の違いをまとめた。

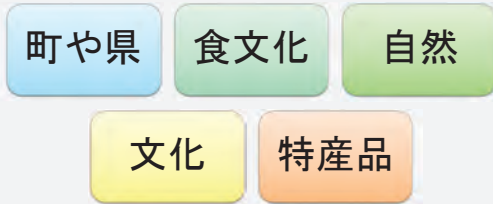


図1 5つのテーマ

④グループ発表

メインルームに戻ると、③で仕上げたGoogle Documentをもとに、各グループごとにわかったことを発表した。

⑤ポーランド語の挨拶の紹介

主に日常会話で使えるものを中心に紹介頂いた(図3)。

⑥日本語のことわざの紹介

ワルシャワ大学の学生が日常的に使えることを考え、「笑う門には福来る」、「猫の手も借りたい」を紹介した(図4)。

⑦閉会の挨拶

活動を振り返り、ワルシャワ大学と群馬大学のつながりが新しくできたことに感謝し閉会の挨拶とした。最後に全体写真を撮り活動を締めくくった(図5)。



図2 グループディスカッションの様子



図3 ポーランド語の挨拶紹介



図4 日本語のことわざ紹介

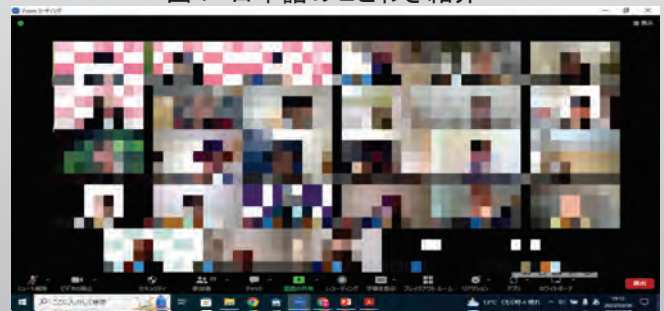


図5 全体写真

3. まとめ

本企画を実施し、日本からはるか遠く離れたところで一生懸命日本語を勉強している人がいることを強く実感することができた。近年急速に進むグローバル化の風潮が日本でも見られるが、このような時代だからこそ多くの外国人に日本語を学んでもらい、日本の本当の魅力を世界に伝えてほしいと感じた。また、同様に日本人である私たちも外国の言葉や文化などを学ぶことで、ますます多様化する日本で生活する外国人との共生を図ることができ、日本の多文化共生を推し進めることができるのではないかと考える。本企画はワルシャワ大学の学生とGFL生の両方にとって、大変有意義なものになった。本企画をきっかけに、今後もワルシャワ大学と連携してこのような交流会を継続的に行っていきたい。

4. 謝辞

最後になりますが、お忙しい中指導していただいた大学教育・学生支援機構大学教育センター Pramila Neupane 先生をはじめ、ウクライナ研究員アデリナさん、ワルシャワ大学 先生、本企画に関係したすべてのみなさまに心より感謝申し上げます。